

鹿児島島の地質⑱ **桜島大正噴火の記念碑(種子島編)** 地質担当 鈴木敏之

大正3年1月の桜島大噴火で各地に避難していた桜島住民のうち、帰還不可能になった人々は故郷を去り、肝属郡や熊毛郡などの県内各地や宮崎県西諸県郡、そして遠くは朝鮮半島など各地に移住していきました。各地には桜島大正噴火の様子やその移住および開拓の記録を記した記念碑が今も残されています。今回は、種子島に残っている移住記念碑等について現在の状況を調査しましたので、そのうちの2か所を紹介します。

なお、今回紹介できなかった残りの碑については鹿児島県立博物館研究報告書第30号(H23.3月発行)に掲載する予定です。

1 記念碑(西之表市国上・桜園)



※本碑は写真左側、右側は創立70周年記念碑

〔調査月日〕平成22年9月29日
 〔所在地〕西之表市国上桜園神社内
 〔建立月日〕不明(記載なし)
 〔岩石の種類〕砂岩
 〔碑の内容〕
 (表面) 記念碑

大正三年一月十二日 櫻嶋爆發
 同年四月十三日 移住 戸数七拾六

(裏面) 記載なし
 〔碑の現状〕表面はでこぼこで、大部分をコケが覆っている。碑文は一部不明瞭な部分もあるが、なんとか読み取ることができる。碑自体はほとんど成形されておらず、もともとの砂岩の原石に近いものを使用している。碑の土台付近に桜島の溶岩が多数配置され、築山が築かれている。右隣に部落創立七十周年記念碑が建立されている。

※部落創立七拾周年記念碑(写真右側)

〔建立月日〕昭和59年4月13日
 〔岩石の種類〕粗面玄武岩(カブトナイト)

〔碑の内容〕(部落創立70周年記念碑)
 (正面) 運命は自分が拓く
 人生行路は汗と感謝で
 部落創立七拾周年記念碑
 大正三年一月十二日 桜島大爆發
 同年四月十三日 移住 桜園部落と名命
 桜園集団移民第一号
 今村源次郎二男 医師今村源一郎書
 昭和五十九年四月十三日
 (裏面) 記載なし

2 移住記念碑(西之表市安城・中割)

〔調査月日〕平成22年9月29日
 〔所在地〕西之表市安城・中割
 〔建立月日〕不明(記載なし)
 〔岩石の種類〕砂岩(台座は安山岩)
 〔碑の内容〕
 (表面)
 大正三年三月十二日
 移住記念碑



▲県道沿いの移住記念碑

熊毛郡長 中山春美書
 (裏面) 裏面には多数の移住者名が記載されている。(コケや風化のため判読不明)
 〔碑の現状〕土台になっている部分も含めて高さが2mもある大きな碑である。表面には碑名や移住した日の文字が大きく刻まれていて読み取りやすい。裏面には当時の移住者名が多数あるが、表面とは対照的にコケに覆われ読み取りが難しい。



▲碑の下部に設置された看板の解説